

「森林機能実演型模型」を活用した「もりりん教室」について

近年、局地的な集中豪雨の発生傾向が強くなっており、全国的に山地災害が多発する傾向があります。

県では、豊かな森林を造成して県民の生命と財産を守るために「治山（ちさん）事業」を実施していますが、施設の整備はもとより、荒廃した森林の整備にも特に力を入れると同時に危険地区の周知や山地災害に対する備えについて啓発活動を実施しているところです。

このたび、災害時における「犠牲者ゼロ」を目指す新たな啓発活動の一環として、「森林機能実演型模型（通称・もりりんランド）」を活用した「もりりん教室」を開催していくこととしたので、その取り組みを紹介いたします。

もりりん教室は、「守林（森林を守ると言う意味）」と、森林づくりマスコットキャラクター「もりりん」にかけて名付けました。

活動の内容としては、県内の小学校などへ出向き、大分県の森林・林業の現状、森林の持つ多様な機能、山地災害の発生現象と治山施設が果

たしている役割などを子供から大人まで分かりやすく理解して頂く、いわゆる出前講座を行っています。

今年の3月以降、中津市の小学校2校において、もりりん教室を開催しており、今後も県内各地で開催していく予定です。

【もりりん教室の様子】←



また、もりりん教室で使用している「もりりんランド」は、手入れの行き届いた健全な森林と荒廃した森林の違いや、森林の持つ機能の再現、土石流や山崩れなどの現象に対して治山施設の果たす役割などを、ビーズを流したりパーツ交換等によって

実演できるように開発したもので、全国初の模型と自負しています。

この模型は、可能な限り持ち運びが容易にできるように製作しているため、もりりん教室のみならず、県民の方に対する災害説明会等のツールとしても利用できるほか、最近では県庁内の職場内研修にも使用されました。

【もりりんランド】←



県内には、6、756箇所もの山地災害危険地区があることから、これまで治山事業を計画的に推進してきましたが、その整備率は3割程度にとどまっています。このような

状況の中で、今後もハード対策のみで県民の生命と財産を守っていくことは困難なため、ソフト対策を充実させることがますます重要になっていきます。

未来を担う子供たちに「もりりん教室」と「もりりんランド」で森林の大切さや災害の恐ろしさを学んで貰い、安全・安心な減災社会づくりを目指すとともに、大切な森林を後世に守り伝えたいと思っています。

（森林保全課 治山班）

【もりりん教室の感想文】←

三つ目は、模型で勉強することです。水の
かわりのビーズを流すことで、水と同じよ
うな動きで大雨の時はこぼれ落ちてしま
う森林がちゃんとできていないと、家が水で
流されてしまいました。それは、石とビーズ
も出て流すし橋もかぶれればどろい力があ
りました。
た。
ぼくは、いつも勉強よりおもしろい、た
と思えます。一番は、模型で勉強すること
が、とても楽しかったです。もうもありが
うございました。

